

第5回 国立市保育審議会

令和7年1月22日

【竹内会長】 皆様、こんばんは。定刻となりましたので、これより第5回国立市保育審議会を開催いたします。

それでは、早速ですが、事務局から配付資料等、説明をお願いします。

【事務局】 国立市保育幼児教育推進課の清水でございます。それでは、まず本日の配付資料の確認からさせていただきます。本日の資料は、郵送させていただきました次第のほか、資料1「市から派遣されていた職員向けヒアリング項目」と、参考資料として、竹内会長が作成された「『保育園民営化通信』にみる準備過程：説明会等の開催実績を中心に」になります。資料の不足等があれば、お申し付けください。

続いて、本日の議題と進め方についてでございます。本日、まずは前回審議会開催時には、園の視察が済んでいなかったお2人の委員様から、視察の感想を簡単にご共有いただきたいと思っております。しかしながら、後ほど能登屋委員のほうから、30分ほど遅参されるというご連絡がありましたので、会の最初のところでは、まず渡邊委員からのみ感想をお伺いしたいと思います。

その後、本日の主な議題となりますが、国立市から、くにたち子どもの夢・未来事業団へ派遣されていた職員へのヒアリングでございます。市から派遣されて、開設初年度から令和4年度まで矢川保育園で園長を務めていた者と、開設初年度に保育士として勤務していた者が本日、説明員として出席させていただいております。

お二人とも、現在は派遣から戻り、市内の公立園で勤務している状況です。本日の流れといたしましては、最初の30分ほどは前回の審議会でご審議いただきましたヒアリング項目について、あらかじめご用意したご回答を説明いただきます。説明は、職員2人がパート分けしながら、合計30分程度していただくような形になります。

その説明をお聞きいただいた後、委員の皆様から自由にご質問していただきたいと存じます。議題2の「その他」の所要時間は5分から10分程度の見込みでございますので、本日はヒアリングメインということで、どうぞよろしく願いいたします。

【竹内会長】 ありがとうございます。委員の皆様事前に郵送した参考資料、私のですけれども、前回の審議会でも民営化へ向けての説明会などの開催状況等をおさらいしておきましょうという形、私自身も「民営化通信」、非常にたくさん丁寧に説明してくださったと思います。これを見て、どんな感じの説明会を開いたのか等をまとめて一覧表になりましたので、ご参考にお持ちください。

ほかの市のケースを見たんですけれども、国立市は本当に丁寧にやっているなどは思いました。

あと、事務局から今回の審議会資料と併せて送られたアンケート結果、これ開催通知にもあったんですけれども、真摯なご意見を匿名で寄せていただくというのがとても大事なものですから、公開を前提としたものではございません。委員の皆様限りという形で全文をお渡ししています。また、ヒアリングに来てくださったお二人の方や、傍聴者の方には、このアンケート結果等の自由記述の欄のものはお渡ししていないので、委員の中で発言するときには、その旨お含みおきの上でご発言ください。

あと、番号を振ってありますので、通し番号にあるという形で、お互いにやろうかと。ヒアリングに関しては、あくまでもアンケート結果を全部読んだ後で、それを受けて分かる形で、質問という形

ですので、アンケート結果一つ一つを問いただすということではないので、ご了解ください。

あと、議事録にも全部発言録、残りますので、その点もご留意いただいてのご発言をお願いいたします。

まず、能登屋委員や渡邊委員から現地視察の感想という形で、能登屋様がいらしていないので、渡邊委員、よろしくお願いします。

【渡邊委員】 渡邊です。よろしくお願いします。この間、矢川保育園さんと西保育園さんを見させていただいて、僕は朝から保育園に初めて行ったんですけども、本当、先生たちは大変だなと思いました。矢川保育園さんは、確かに建物が新しく、本当に子どもたちが楽しく遊べる保育園だなというのはつくづく思いました。園長先生から、いろいろ建物が丸く、こうなっているの、ドアの開き方がちょっと使いにくいとか、そういうのも聞いて、そういう細かいことは感じました。

西保育園さんは、確かに建物は年式がたっていて、古いかもしれないですけど、使い道はすごいよさそうには感じました。子どもたちも本当に楽しく、いい笑顔が見られてとてもよかったです。写真とかも、西保育園さんはパソコンとかがまだ設備していないから、いろいろ昔ながらの選んだりというような形をまだとっているというのを聞きました。確かに今、時代的に矢川保育園さんなんかはパソコンで選ぶような形にはなっていると思うんですけど、写真を見て選ぶのもいいのかなと思うんですけど、ただ、時代的に忙しいから、保育園に預けているというのもあると思うので、そういった面も考えなきゃいけないのかなとは思いました。

1つ言えることは、保育園の先生たちは本当に大変だなと。子どもたちをあの人数で見ただけということ、すごい親として感謝しなきゃいけないなというのは、すごい思いました。本当に何て言ってもいいか分からないんですけど、僕は学力がないので、何と云うか分からないんですけど、お金の面ももう少し考えないと、保育園の先生たちになる人がいないんじゃないかなと。

特に男性の先生たちなんかは、生活する上でなかなかできる職業じゃなくなっちゃうのかなと思うので、もうちょっと金額とか、そういうのを考えてあげないと、と思いましたね。

【竹内会長】 どうもありがとうございました。また来られた時点で、タイミングを見て、能登屋さんのご感想もお伺いしたいと思います。ありがとうございました。

現地視察、お疲れさまでした。また、ご案内くださった先生方、本当にありがとうございました。

それでは、メインということで、ヒアリングという形でいろいろ教えていただきたいと思っております。本日は、現在の所属としては、国立市立東保育園の佐伯園長先生と、国立市立なかよし保育園の清水先生にお越しいただいております。どうもお忙しい中、ありがとうございました。

まず、自己紹介をしていただいて、その後、ご用意いただいた回答のご説明をしていただけますか。どうぞよろしくお願いいたします。

【清水保育士】 なかよし保育園の清水です。矢川の旧園舎、仮園舎と過ごし、新園舎立ち上げのプロジェクトメンバーとして準備を進め、引っ越し後も派遣職員として勤務していました。本日はよろしくお願いします。

【佐伯園長】 今、東保育園の園長をしています佐伯と申します。矢川保育園のほうは、2年前まで園長をさせていただいて、24年ほど勤務しておりました。今日はよろしくお願いいたします。

【清水保育士】 今回はヒアリングということで、当時派遣されていた、なかよし保育園、西保育園、東保育園に戻っている職員、それから、現在まだ派遣で矢川保育園で勤務している職員、公立から事業団化されるときに、事業団会計年度任用職員となりましたが、現在は公立保育園で働く職員、

そして、派遣はされていませんが、公立3園の当時から事業団化について一緒に考えていた公立職員、全ての意見を集約してきています。

7つのヒアリング項目について、①から⑦の検証項目が前回の書類にありましたが、分類分けするのは難しく、全て保育という観点に変わらないため、特に分けずに、まとめて発表させていただきます。

まず、1番に引継ぎはどのようなものであったかというところです。当時、私たちは国立市の保育を継承してほしいと、当時の部長らに伝えられ、派遣されました。一般公募ではなく、理事長の推薦という形で入ってきた職員は、新園という感覚が強く、継承を受け入れてもらえない姿勢と、目の前でどんどん変えてしまう保育内容に戸惑いを感じながら、派遣されている職員がいました。

これらは、当時、汐見先生より、新しい保育園をつくろうと誘われてきたと、事業団職員からも聞いています。公立から事業団に移った会計年度任用職員も同じ気持ちの人が多く、公立でやってきたことと何も変わらないと当初言われてきましたが、実際は土台がはっきりしない保育のやり方に戸惑うこともあり、責任の度合いも、仕事内容も変わり、約束が違うと思う方もいました。

社会福祉法人を市が設立して、どのような保育園にしようとして理事長に委託したのか明確になっていないため、私たちも知りたいと思っています。そして、何のために派遣されたのか、何を継承したらよかったのか、継承できていないとしたら、何が原因だったのかを示すことで、今後に生かされると思っています。

また、事務局側、事業団職員との温度差や不信感がある中で、その点について話し合うことが難しく、ここまで来ましたが、そこを明確にしてこそ評価検証につながると思っています。

保育内容についてですが、新園舎がスタートするに当たり、人員が入る予定も実現せず、正規職員が欠けている状態で、保育と並行して準備を進める負担はかなり大きいものがありました。私たちは、園舎が変わることによって変わる保育、子どもの動線や遊び方などを常に考え、子どもの目線に立ち、どうしたら園舎で子どもたちが主体的に活動していけるかということを常に考えてきました。

保育にはいろいろなやり方があるので、様々な経験や、価値観を持つ保育士と一緒に働くに当たり、よいところは取り入れながら、矢川の園の文化と一緒に保育をしていく中で体験し、大切にしていることを実感してほしいと思っていました。採用された新人職員はしっかりと自分の考えを持ち、保育している姿を見ても、たのもしいと思います。子どもと向き合い、全力でいろんなことに取り組む姿から、私たちも学ぶことがたくさんありました。

経験がある職員は、それまでの経験や考え方は私たちと異なることがあり、伝え合ってきたつもりですが、1つの意見にまとめることや、これまでの保育を理解してもらうのは難しかったように感じます。現在の園長先生も描いている姿があり、そこに近づいているのではと感じます。今の矢川保育園は新しい保育園になってきていると感じますが、もうすぐ4年経過する現在も、試行錯誤しながら子どもの姿を捉え、それぞれのよいところを取り入れながら取り組み、変化している最中だそうです。

保育を継承することに重点を置くならば、新園へ行く前に、保育を共にできる期間が必要だったのではないかと思うとともに、事前に公立4園で作成した引継書をもっと活用できたらよかったのかなと思いました。

事業団による保育運営ですが、事業団側は保育のことを知らないため、理解を求めるのに苦しんだり、折り合いがつかないことも多く、つらい場面もありました。先ほども言いましたが、引き継ぐつものの公立職員と、新たな保育園をつくるつものの事業団職員では折り合うはずもなく、引継ぎも現

場の保育士に一任され、明確にならない方向性に悩みました。

また、採用に関して、同じ私立園から2年目に引き抜きのような形で複数採用があったことにも疑問を感じています。採用担当者を含め、採用のやり方には納得いかない部分もありました。事務局側が単体で動いてしまったり、保育を丸投げするのではなく、矢川保育園の運営への関与、サポート、情報共有、相談しやすい関係づくりがもっとできていたらよかったと思います。また、事務局側には保育のことをよく知っている人がいたほうが良いと思いました。

2番目の、事業団に引き継いだ保育は何かという点です。民営化の方法を考えていく経過の中で、社会福祉法人にそのまま民営化するのではなく、子どもや保護者のことを考え、事業団にすることで、国立市の保育の継承となった経過があります。これは、第1回審議会で配られた資料10の国立市保育整備計画の74ページにも詳しく記載があります。

保育内容について、反省点としては、派遣職員と事業団採用職員がスタート時点で双方の思いに相違がある中、始まってしまったことです。その点については、時間をかけて話し合いましたが、分かり合うことができず、園として土台となる軸が曖昧なまま進んでしまったため、事業団職員には園の方針や軸となる部分を明確に伝えておくべきだったと考えます。

事業団職員からしたら、以前の話ばかりして、変えようとしめない公立保育士と感じられていたかもしれないかもしれません。私たちもつらかったですが、事業団職員もつらかったのではないかと感じました。この件については、私たちと理事長を含む事業団職員に本当に同じ話をしていたのか、当時の事務局長に聞いてみたいと思っています。ハード面ではなく、ソフト面での保育に対する想いを継承していくことには、さらに難しさを感じました。

これまで積み重ねてきた行事やデイリープログラムなどの保育のやり方ではなく、物も、行事も、どれだけの人が携わり、積み上げてきているのか、私たちの想いが伝わっていないと感じる職員も多いのは確かです。矢川保育園で勤務している派遣職員は、日々全力と一緒に保育しているのはもちろんですが、実際にどのような話し合いが行われ、結論を出してきたのか、聞く機会があればいいなと思いました。

3点目の民営化された矢川保育園に派遣されてみて感じたことについてです。時代も変わり、保護者や子どもの様々なニーズに応えるべく、保育のやり方は変えていかなければならず、公立に比べ、迅速かつ柔軟に対応できるよさもあったとは感じています。施設の管理について、前回の視察で、様々なご意見があった園舎についてですが、民営化が決まった際から、矢川保育園から2名、なかよし、西、東保育園から1名ずつ代表で園全体の意見を集約し、定期的に集まり、どんな園舎がいいかを話し合ってきました。当初は、旧矢川保育園のような平屋で、全クラスから園庭を囲み、見渡せるようなL字型を希望しており、そこからのスタートでした。

既存の木を残して、林のような園庭にしようというプランは残念ながら実現しませんでした。園庭は部屋からすぐに出られ、ほかのクラスの様子を見て、思い切り体を動かせる空間、壁や棚など、状況に応じて変更しやすい可動式の空間、異年齢交流を大切に、つながれる空間、遊びが継続できるアトリエコーナー、ほっとくつろげる図書コーナー、駐輪スペースの充実、ランチスペースは食に関心が持てるよう、給食室の様子が見えるようにしたり、テラスは1周回れるようにつなげたり、玄関は遊びに来た人が立ち寄りやすいように、門はあえてつけずなど、閉鎖的にならないような希望を出し、採用してもらいました。

しかし、面積が800平米という制限の中では、希望を全てかなえるには難しさがあり、環境デザ

イン研究所（事務局注：矢川保育園新園舎の設計を委託された企業）が下案を出してきた時点で、扇形の園舎を基本に考えなければならなかったという経過があります。

また、この間、子どもや保護者、市民の声も吸い上げており、保育士目線による要望だけではなく、あらゆる市民の要望を取り入れたため、保育するという観点から少しずれてしまったのではないかと考えています。環境デザイン研究所や建築営繕課との打合せの中では、保育室はじめ、遊具、防音扉、トイレの位置、部屋の場所、シャワー室、調理室の動線、収納など、様々な意見を出しましたが、限られた予算や平米の中では変更は難しいことも多かったです。

例えば2メートルより下につく戸棚は平米数に含まれてしまうため、仕方なく高い位置になったことや、乳児の受託室等、クラスをあのように仕切ったのも平米が理由になっています。保育士目線の意見の反映は難しかったところもあります。調理室も栄養士が入り、最初、天井までの高さが床から2メートルしかなく、狭かったため、床を下げ、ダクトの位置など調整してもらった経過があります。

また、保育園のことだけではなく、地域のつながりや居場所、大きな家をコンセプトに、矢川プラス含め統一したイメージも重視され、市の中心的なプロジェクトとなっていたため、ある程度の土台は既にできており、市の目玉となるような園舎がコンセプトの事業団側と、なるべく変化なく新園舎での生活を考えていた保育士との間には、考え方の差があったと思っています。

一方、矢川保育園と同じく視察された西保育園は築50年ですが、当時の保育士の意見がかなり吸い上げられた園舎の構造となっているため、古いですが、使い勝手はよいと公立園の中でも言われています。

次に、事業団となって変わったところです。引継ぎをするに当たり、公立の保護者から意見を聞いたり、引継書を作成したりと、様々な準備をしてきましたが、いろいろなことが変わってしまった現状を見ると、開園3、4年目で、保育の狙いや内容に対してアプローチ方法を変えていくというよりは、全く別の保育になってきていると感じます。公立時代に一番大切にしてきた保育に対する想いの部分が、継承されているのかが疑問です。

例えばお泊まり保育、プール、遠足の行き先、お祝い会などの大きな行事に関しては、趣旨が全く異なっていて、別物になってしまっていないか。まだ移行期間中の数年の間に、あまりにも簡単になくしてしまったことについては、とても残念です。どのような経過でそうなったのかは説明が欲しいと思っています。また、事務局側も、これらの経過や詳細を知っていて、納得しているのか聞きたいところです。

第2回審議会を傍聴し、園側の現状を聞く限り、コロナのことは1つのきっかけではあったと思いますが、正直、コロナを理由づけにしているように感じる部分もありました。プールについては、熱中症対策で屋根をつけたにもかかわらず、やらないというのは、理由の1つに監視員が配置できない、人手不足によるものもあるようでしたが、大人の都合でできなくなる保育があるのはよくないと思っています。

公立園の中には、矢川より職員数が少なくても、工夫して監視員を出せる体制をとり、プールをしている例もあります。職員の働き方や体調管理も大切ですが、子どもの保育より大人の働き方が優先されているのではないかと、いろいろ感じるころはあります。審議会の中での説明では、子どもがプールを楽しみに登園し、熱中症アラートでできなくなったときの悲しい姿についてフォーカスされていましたが、それはプールでなくても同じではないでしょうか。水遊びに期待する子もいれば、外

遊びや室内遊びに期待する子もいます。どんな活動に対しても条件は同じであり、プールをやらないという選択が人手だけの理由ではないとは思いますが、ほかにも人手不足でできない保育があるとすれば、改善していかなければならないのではないかと思います。

しかし、プールに関しては危険が伴う活動になるため、正直、職員の集団レベルによって危なくできないという判断をせざるを得ない場合もあるのかもしれませんが、1年目から3年目の職員の入れ替わりが激しいこの時期には、確かに難しかったのかもしれませんが、今後は考えていってもよいのではないのでしょうか。

また、新設当初に2,000万円の予算の中でプールを経験させてあげたいという職員の想いがあり、一番最初に300万円弱をプールのために使った経過があります。プールのほかにも、それぞれの子どもの年齢に合ったものを厳選し、カタログから選び、各クラスに購入したままごとキッチン棚、食事用テーブルなど、数年しか使っていないにもかかわらず、不用とみなされ、倉庫で眠っている備品やおもちゃなどがたくさんあり、400万円近く無駄になってしまっています。

公立は限られた予算の中で工夫しながら保育しているため、あまりにもお金や物の使い方の感覚が違い、驚きました。新設当初に選んで買ったものの半分ほどのものが、もう使うことなく捨てられてしまうというのは悲しいため、現在は手続を踏み、公立園に分配し、使わせてもらっていますが、作成したものなどを含め、想いがある立場の者としてはつらいです。

ひまわりの日についての説明もありましたが、もともとお泊り保育がコロナでできない時期に、代わりになるものをと一時的にできた行事でした。お泊り保育の狙いや内容、これまでの経過の中で、お泊り保育を大切にしてきたからこそこのひまわりの日であるため、これから泊る可能性も含め、子どもたちのやりたいことを思い切り楽しむという内容や、子どもたちが選択できる環境を今後もつくってほしいと思っています。

事業団による保育園の運営についてです。当初、人的効果については、公立3園の職員が潤うかもしれないという話もありましたが、1度もそのようなことはありませんでした。公立は、現場を知っている職員から主査や園長を出しているため、保育や職員に対しての理解がありますが、矢川保育園の主任には現場のことを知ってもらうには時間がかかりました。その主任も今は退職し、現矢川保育園は主任不在です。

公立園の人手不足はおろか、矢川自体にもポジションに穴が空いています。派遣職員が3年目までは主任の業務を行って来て補っていたため、派遣職員の負担が大きくなってしまいました。民営化とともに、事業団職員に替わった会計年度任用職員もいますが、働き方や保育が変わってしまったため、離職率も高いのが現実です。矢川を辞めて、公立の会計年度任用職員として採用を受け直した方々もいます。

また、前回審議会で、松葉部長から、派遣職員の戻り方について、フリーエージェント制度と、体調によって部署異動した例について説明がありましたが、矢川保育園にはそういった例は現時点ではなく、訂正していただきたいと思います。

これらの財政面効果、人的効果については、4年間のことを数値化して効果として示せるなら、知りたいと思っています。

施設の管理について、準備期間はとても短く、業務量がとても多くなり、大変でしたが、コドモンの導入により、現在は事務量の大幅な削減につながっています。公立園は写真も枚数制限があり、職員が販売、お金の管理もしているため、このシステムのよさを公立園にも広めるべきだと思い、進め

ているところです。

次に、今後どのように変化・向上していけば良いと思うかです。新園舎スタート前に、3月、汐見先生と、事務局長、当時の園長である佐伯園長と、新主任、派遣職員2名で、4月に向けての話し合いが行われました。それが1回、1時間ほどのもので、今後の運営ややり方を決めるのではなく、保育内容を変える必要があるということを示される場でした。全員がその場にいたわけではないため、事前に職員全体に、どのような方向性で今後保育園を運営していくか説明してほしいかと思っていました。

また、理事長が来た際には、公立批判を聞くことも多く、私たち派遣職員としては、つらいものがありました。保育内容について、公立園は園長の判断や、上から下りてきたものをやるのではなく、合議制で若手にも意見が言えるチャンスがたくさんあります。子どもたちも自分で考え、伝えられ、決めることができる力を育てたいと考えるように、職員も一人一人が一員として役割分担しながら、納得いく結論を導いていくことを大切にしています。会議などは時間もかかりますが、みんなで決めていくという、その姿勢がよりよい保育につながっていたと感じます。

そうすることで、職員一人一人の意識が高くなり、園長や主任に確認しないと、保護者に聞かれたことを答えられないということのないようにしていました。1年目の職員募集に関して、新人が近い立場として園内を案内したり、園の紹介をするという企画を実行したのも、どの人も意見を出しやすい職員集団にしていきたいという思いからで、その日をきっかけで、応募した職員が採用された経過もあります。

トップダウン的な考えではなく、みんなで話し合うことを主とし、1つの目標に向かっていくことも必要だと思います。そこは国立市の継承の1つだと思っているため、積極的に取り入れていってほしいかったです。また、私たちは継承を目的としているため、同じ保育現場に立ちながら引継ぎをしていけると思っていたのですが、スタート時点からずれが生じていたとしたならば、今後同じように民営化する際は、方向性が決まらないままスタートしないことと、保育内容を変える必要があることをしっかり示すべきだと思います。

事業団化したことによってもいい面もありましたが、派遣職員である私たちがいる意味があるのかと感じてしまった部分もありました。

施設管理について、備品についても、先ほど言いましたが、開園に向けて始まる前に全て準備しなければならなかったため、実際に生活してみても必要なものもありましたし、園舎との素材の相性や、子どもが実際に使ってみてからの課題もあり、買い直しや撤去という無駄が出てしまいました。新園での生活をイメージしながら、安心して過ごせるように事前準備をしていくことを選択しましたが、保育や生活が始まり、園舎をしっかりと把握した上で、過ごしながら買っていく方法でもよかったのではないかと思います。

次に、民営化をしたことによる保護者からの苦情、不安、意見と、その対応についてです。民営化を決定したときから、公立保育園を継承していくということと、今までと変わらないということを保護者にも常にしてきました。以前を知らない保護者は、今の状態に不信感を持つことはなく、サービスや安全の部分では満足している人もいます。汐見先生が理事長であるからと、矢川保育園に行きたいと思う保護者もいますが、実際に来て、保護者と顔を合わせたのは過去3回ほどしかなく、懇談会も反応が弱く、参加人数は少なかったのが現実です。職員との交流や、話す機会も少ないのが現状です。

保育内容については、1年目、新園舎でスタートし、一緒に過ごしてきた保育者がいるということは、子どもたちの安心に大きくつながったと感じています。しかし、環境が大きく変わり、保育のやり方も手探り、方向性も見えない中、どの職員も子どもたちのために模索しながらやってきましたが、子どもたちや保護者に不安感を与えてしまったのかもしれませんが。今後は、保育者が安心して働けず、子どもたちにしわ寄せが行ってしまうということがないように保育していきたいと思い、一人一人が全力で環境づくりに力を注ぎました。

事業団による保育園運営について、新園1年目の5歳担任の異動については、本人は希望を出しておらず、逆に残りたいと、自己申告書とアンケートを提出したものの、かなってはいません。もともと就学しても、保育園に戻れる場をつくってあげたいということから、5歳担任は次年度も同じ職場で子どもたちの帰りを待つことを大切にしてきました。民営化に伴い、保護者から出ていた要望書にも、卒園児を見守るため、5歳担任は残ってほしい旨が書いてありましたが、それもかなわず、卒園式前に臨時で行った保護者説明会の際の保護者の涙は、見ていてつらいものがありました。保護者の意見や本人の気持ちを無視されてしまったことは非常に残念です。今後は、同じような思いを保護者や子ども、職員がしないように、反省点を生かしてほしいと思っています。

しかし、公立のよさは、異動しても、市内のどこかで必ず会えるという利点があります。異動してからも、今でも登下校中に声をかけてくれる卒園児や、異動先にも顔を見せてくれる保護者がいて、励みになっています。

7番の事業団の職員と、市派遣職員が同じ場所で働くことへの課題です。私立にはキャリアアップのための研修制度があり、大切にしているのも分かります。資格を取得したり、処遇改善につながるよう、1、2年は事業団職員を積極的に研修に参加できるよう協力してきました。現在は、少しずつ派遣職員も研修に参加し、学ぶ場は同じようになってきているようです。

また、時間外のつけ方は時間内にやりくりして終えることの意識が個々によって違うため、制限のある派遣職員と同じ環境で働く場合は、事業団職員もある程度制限が必要なのではないかと思います。立場は違っていても、同じ職場にいる限り、働き方はある程度一緒にしていくべきだと思います。

ほかにも、手当の仕組みや、補助金に関わる保育事業が幾つもあることなど、細かいところで派遣職員が知らないことや、情報共有できていないことにより、思いのずれにもつながり、同じ職場で立場の違う職員が働く難しさを感じました。

最後になりますが、審議会の中で、公立時代の課題について知りたいという意見がありましたが、唯一挙げるとするならば、お金です。保育の質の向上は図れても、予算を上げることはなかなか難しいのが実際のところ。子どもが育つ環境にはお金もかかるし、妥協する点の一つもないと思っています。公立は私立に比べ、予算が少なかったり、人手もありませんでしたが、手作りおもちゃなどで代替を用意したり、人手のやりくりにも、主査―私立という副園長や主任―、園長が積極的に加わり、全体で子どもを見守る体制を大切にし、楽しく保育ができました。

旧園舎が古かったり、仮園舎時代のプレハブでの生活は大変なこともありましたが、職員一丸となって切り抜けてきました。新園舎に向けての業務も増えたのは事実ですが、子どものためにとする良い職員環境であったと思います。

今後も、それぞれの思いを出し合って、大切なことを話し合って決定していく職員集団となってほしいと願っています。そして、今回の検証を経て、次につなげていくために、今と同じような思いはどの立場の職員にもしてほしいと思っています。

私からは以上になります。園長の立場からは、また違う意見や思いもあると思うので、この後は佐伯園長にお話ししてもらいます。ありがとうございました。

【竹内会長】 ありがとうございました。

続けて、お願いします。

【佐伯園長】 では、続きまして、東保育園園長の佐伯です。今、清水さんのほうから話をさせていただいた内容は、先ほど最初に申しましたとおり、公立保育園で今働いている職員が話をしたことを代表して発言させていただいているので、その中に私の意見も含めてというところがあるんですが、私は園長という立場からも、少しお話をさせていただきたいと思っています。

先ほど自己紹介のとき、24年というふうにお伝えしたんですけども、私は公立の保育園しか勤務の経験がなくて、何年間という年がばれるのですが、多くの先輩方から受け継いできた保育というのを、積み重ねてきた人とのつながりを大切にしてきました。

保護者の方にもすぐにお伝えしていきたいと考えて、市の担当の方が発行した「保育園民営化通信」のほうは既にご覧いただいているかと思いますが、本題の前に少し状況等を思い描いていただけたらと思い、少し本題からそれちゃうんですけど、話させていただきます。

矢川保育園について、ちょっとお話しさせていただきます。概要については、ホームページ等でも書いてあるんですけども、1971年に開園してから42年目の2013年に、耐震工事の基準を満たさないということで、団地の1階の園舎から、道路予定地に建ったプレハブの建物に移動して、2021年の3月まで7年3か月という長い間を過ごして、50回目の卒園式を終えた後、移行しました。

2017年に、保育整備計画がまとまり、プレハブにいた時代に民営化の対象となってから移行までの間のことを思い返すと、職員一人一人の意識の強さや、チームワーク、保護者の方の協力で進んでこれたと感じています。団地の工事が遅れて、新園の移行時期が2年延び、新園舎へ引っ越し予定も変わり、その都度、保護者の方に説明をしてきました。そのとき感じたことは、自分のお子さんが卒園した後の話だから関係ないという方はどなたもいなくて、矢川保育園を大切に思ってくくださる保護者の方がたくさんいるということが、いつも職員は大きな力をいただいていた。

先ほども話が出ていたと思うんですけども、プレハブの園舎は長く生活するために建設された場所ではないため、砂場と狭いスペースしかない園庭と、暑さ・寒さ対策、安全面など、よい環境ではなかったのですが、少しでも快適に過ごせるような改善をと知恵を出し合っていました。

さらに、新園への移行準備を通常の保育と並行して行い、業務は莫大でした。団地の下から引っ越しの経験から、2回目のプレハブから引っ越しの1年前には、準備のために1名増員するという予定になっていたのですが、実際には入ることはなく、職員が全員そろっていない中、また、感染対策をしながらの日々の保育で大変でした。国立市の大きな政策の1つとして、矢川地域の子育ての環境の充実のために保育園と複合施設の建設があり、市の事業としての運営ができたらと思うこともありましたが、民営化されることになったことは、受け入れなければいけないことでした。

そして、市の全体のことを考える役割は、理解していたつもりです。大きく環境を変えず、公立の保育を継承していくことを折に触れ、移行前に保護者へ説明していました。設計や新園に対しての私たちの要望を実施計画に盛り込んでいくことも可能と聞き、準備を進めました。何年もの期間、いろんな人の思いを託された役割を感じて引継ぎとなりました。

これから、1番の引継ぎプロセス、保育内容のことについてお話しします。先ほども、たくさんお

伝えしていますが、「想い」は、文字や方法で伝えることは難しく、一人一人が大切な存在として育つ環境を整えることや、保育で大切にしていることはとか、どんな保育園にしたいかなど、公立保育園の全職員で話をたくさんしました。その内容は、今日お配りしている「子どもたちに大切にしたいこと」と「矢川プラス～私たちの思い～」にまとめました。

その際、これまでの保育を知る機会にもなり、またマニュアルのような文章で伝えたい内容を細かく記すのではなくて、大切にしていることを伝え合って、伝えるだけではなく、一緒に考えて引継ぎをしていこうというようなことを確認しました。公立・私立の違いは、制度や環境の違いはあっても、子どもの最善の利益を守り、保育していくことは同じだと思います。

矢川保育園の園目標、「みんなで 楽しくあそぼう… 明日も！」が、移行後も変わらず引き継いでくれていることは、うれしいことです。その中に込められた一人一人を大切な存在であるということや、子どもたちの育つ環境をつくる、自分で考え、行動できる、思い切り体を動かして遊び、経験から学び、人とのつながりを大切にしていこう。

主体的な活動は、やってみたいことを実現し、なぜと疑問に思ったり、諦めずにじっくり取り組む過程を大切に、結果だけを見ないようにしよう、行事も、子どもたちと一緒に思いを出し合って決め、仲間とのつながり、日常の遊びを楽しむ内容を重視していこうなど、園目標に込めた考え方を日々の保育の中で通じて伝えていきました。

冊子をまとめるに当たっては、とても長い期間がかかったため、その間に保育指針の改定などもあったので、内容的なもので年齢ごとの区分だったりとか、視点については、以前の保育指針の内容が入っている部分もあると思うんですけども、指針が変わった後も、見直しながら内容を理解していくようにしました。

主体的な活動が重視されるずっと以前から、子どもと一緒に決める楽しさを先輩から引き継ぎ、大人も意見を出し合って、トップダウンではなく、合議制で決めることを積み重ねていきました。あとは、長い歴史もありますが、つながるということを大事にしていました。長い歴史の中で関わってきた全ての人が、こんな保育園にしたいなど、新園に関わる多くの人の思いを持ってスタートしたいということ、しっかり伝えていきたいというふうに考えていました。

これまでのように、卒園した子も、いつでも遊びに来れるような、地域に密着した保育園にしたいというような思いがあります。

新園移行に関して、そんな中で準備をしていて、決まっていたことが3つほどあります。矢川プラスの子育ての拠点の中に、保育園が800平方メートルあり、トータルしたイメージの中で保育園が設計されること、新たな事業として一時保育を行うこと、公立でなくても、実施計画の中に自分たちの意見が反映されること、このことについては決まっていました。

検討事項としては、定員、建物、園庭の設計、引継ぎをどのように行うか、複合施設や他の公立園との連携をどうするか、他の事業を行うか、以上の5つについて、検討課題としてあったので、公立4園の係が話を進めて決めていきました。

設計については、市の担当者と話し合いを、建築業者として30回を超えるような打合せを行ってきました。自分たちの保育園という思いで、職員全体で共有して話し合いを進めてきました。園長会だけで決めるのではなく、職員が話し合っていていくことが大切にしてきたことです。市が運営する法人の運営となっても、変わることが少ないというふうに、そのときは思っていました。

引継ぎ期間をどうやったらスムーズに行えるか。期間や派遣職員の役割などを考えて、正規職員は

制度上で可能な5年を目安に、緩やかに移行していくことになりました。市の採用で働いている正規以外の非常勤職員の労働条件、内容は今までと変わらないという説明を聞いて、事業団の職員となる選択をしてくれました。公立のときと同じ職員集団で新園をスタートすることができたことは、とても心強く、今も勤務している非常勤職員にとっても感謝しているところです。

公立園とのつながりは、係会（保育問題研究・研修・給食・栄養士・保健師会・園長会）や、5歳クラス交流・行事も継承していく。状況により難しいことはあると思いますが、可能な限りつながっていくようにしたいと考えていました。

2番で、民営化された矢川保育園に派遣されて感じたことです。それは、国立市が設立した社会福祉法人が運営を委託されて、矢川保育園は他の民間園と同じなのかということが、ずっと私の中にはあります。ここから、ちょっと園長としてのお話をします。通常であれば、園長と理事長は方針、方向性が一致して、園運営を任されているというところがあると思いますけれども、開園前からの経過の中で、話をする機会を自分自身でも積極的に持とうとしなかったため、機会も少なかったです。

事務局が橋渡しをしている現状の中で、新園がスタートしてから、それまで変わらない公立の保育を継承すると言っていた内容から、民間になったのだから、組織をつくらなければ主任・副主任を置き、ピラミッド式のような役割分担をなどの話が出て、のんびり環境をつくりながら伝えていきたいという思いと、現実の変化に戸惑いました。事業内容も、経営・生き残っていく園になるためのサービス・地域交流・実習生の受入れなど、今までお金と結びつかない環境だったのですが、経営という視点を知る機会となり、私は経営の役割はしていないんですけど、勉強になったところもあります。

年に5、6回ある理事会や評議委員会に主任と参加しましたが、私は管理職ではなく、理事でもないので、傍聴という立場でした。状況報告のために数回話をする場がありましたが、コロナの時期であったので、理事長や理事の方が園に来ることはなく、保育園のことを話していますが、事務的な会で、保育内容に触れ、議論するようなこともなかったです。現園長が管理職とのことで、理事会に参加しているようなので、本来はその形がよいと思います。

新園スタート時に採用された大学卒の3人の新人と、理事長推薦の経験者1名が正規職員となる中、派遣職員の主査が不在で、どうするかとなりました。事業団の職員と一緒に進めていく気持ちがあったため、派遣の職員の誰かが主査となることよりは、役割に縛られず、保育を思い切り楽しんでほしいと考え、事業団の職員を主任にと選択しました。採用時には主任という予定ではなかったので、後から任務が変わったこととなります。公立での役割分担の主査と、私立園の主任の役割の認識の違いが大きく、認識を一致することが難しかったです。

また、新しい保育をつくることへの考え方もあったため、伝えることが難しかったです。具体的には、園長と一緒に物事を進めていく役割が主任となる捉え方や、みんなで話し合っ決めていく仕組みの考え方のずれがありました。様々な考え方は、それぞれ経験した保育によって違うことは理解していたのですが、私としてはもっと粘り強く、しっかりと話し合っていくことも必要だったのではないかとこのように振り返っています。

コロナの感染対策をしながらの保育で、ICT化されたシステムを使うことや、これまでのように、他の公立園と打合せをして決めることもなくなり、市との距離を感じ、事務局と共に現場の判断を迅速に行わなければいけないことなど、戸惑いがありました。園長事務として報酬計算や、購入の際の手続などの業務は減ったのですが、運営がスムーズにいくように、配置や調整などの業務を行っていききました。

職員との面談も多く持つようにしていったのですが、不安や不満の解決はすぐに難しいことが多かったのが現実です。しかし、職員一人一人の積極性や、何とかみんなで頑張ろうとする力を本当に大きいと感じる日々でした。プレハブではできなかった園庭での運動会や、全園児が遊ぶ園庭の風景や、職員で楽しいことを考えたイベント、年長クラスのひまわりの日など、大変な中でも、新しい生活の中で、こうやったらどうかなと子どもたちと一緒に考え、これまでのように楽しんでいけたり、子どもたちからのパワーをたくさんもらっていました。

振り返りとしては、1年目、園長として、迷わずこれまでのやり方を変えずに進めるべきだったなというふうに思っています。主任を派遣職員に任せ、新しい生活を安定させることに力を入れるべきだったと思いました。園長として、みんなが安心して保育をする環境をつくれなかったことは事実です。理事長を含め、公立の保育を継承することより、新たな保育園をつくりたいという事業団に採用された職員さんとの思いのずれが修正できなかったことも大きいです。

「園長が方針を決定する園」の経験者からすると、もっと方向性を示していくべきだと感じたところもあったのではないかと思います。公立時代に話していた保育の継承する任務の捉え方の変化や、人事採用に関して、事業団事務局に不信感を抱くことが幾度となくありました。保護者の不信感につながった5歳担任の異動の内示は、1年目の終わりに起こった大きなことです。事業団職員も、毎年職員の入替わりが多く、派遣がいなくなるまでは、毎年職員を採用し、安定しない大変さもあるのではないかと思います。

派遣職員も年々人数が少なくなり、現在5名、公立職員の保育を基盤としていくなら、必要な期間ですが、5年間が必要なのかなというふうに思っています。

今後の派遣職員の人事は、さらに本人の希望を優先してもらえたらいいなというふうに感じています。民間ではあるが、市の設立した法人の園である特徴をどう考えるかということが大きいです。一般の法人に委託したときと違いがないというふうに思います。民営化されたことによる具体的、人的効果が、公立保育園の運営とは直接関係することはない現状でした。運営について、継続的に市の職員が理事になるなど、関与していくべきではないかと考えます。

また、事務局に保育の専門家や、保育担当をしていた方がいるほうがいいと思います。公私連携と位置づけけないのであれば、民間メインになるという認識であることを事前に説明していくほうが良いと思います。

事業団職員と派遣職員と一緒に保育をしていく中で思いを伝えてきましたが、スタート時に、もっと丁寧に、採用された職員にやり取りをしていく時間を持つべきだったというふうに思っています。引継書の活用などを十分にできなかったのも、時間をしっかりと取って、話す時間を持っていたら、もう少し違ったかなというふうに思っているところです。

2年目の11月に、私の派遣終了の内々示をもらい、新園長との3か月引継期間と保護者説明、職員の役割分担表などの作成、個人面談などを一緒に行った期間は貴重な時間となりました。事務局の体制も変化がありましたが、近い存在として一緒に運営していくことの重要性を痛感しました。十分に伝えられなかったのですが、4月から一緒に生活する保護者や子ども、職員の安心につながったのではないかなというふうに思います。

問題が解決していないこともあって、安定した保育環境にはまだ到達していなかったこともあるので、異動に関しては複雑だったのですが、公立の園長の立場からサポートできることもあると考え、快く引き受けてくださった岩井園長に思いを伝えてきました。保育を伝えるために、移行前に一緒に

関係性をつくっていくということが、引継ぎの際にはとても重要だなというようなことを、経験を通して実感いたしました。

4番の保護者からの意見と対応は、1年目に第三者評価を受けたときの保護者の反応は、これまでの保育を大切にしてほしいという意見のほか、新しい視点も期待しているという声などもありました。プレハブの状況等を比較した環境や、新しい園舎での安全面、ICT化による情報システムの反応がよかったと思います。先ほどお話しした5歳クラスの担任の異動が一番大きなことでした。

コロナ感染の対策や行事の実施内容についても、とても理解をさせていただいたと感じています。卒園した保護者とのつながりも継続していて、遊びに来てくれたり、コロナで実施できなかった同窓会を2年、1年生と行ったほか、対象を中学3年まで広げた同窓会で、待ちに待った新園に足を運んでもらい、再会できた瞬間は、1つ役割を果たしたという思いでした。

変化したところは、運営主体が変わることは予想と大きく違い、公立ではなくなるのが大きなことでした。当たり前のことだと思いますが、事業団の運営は、他の法人に移管されたときとの違いがあるのではないかという思いだったんですけれども、それは一緒でした。移行したときも人的環境を大きく変えないということは、職員と一緒にスタートしてきたということでは、実現できたと思います。

市が設立した法人の保育園としての役割は何なのか、担うものが何なのか、今後明確にしていくことも必要だなというふうに思います。公立は限られた予算の中で、毎年厳しい財政難だと感じています。民間となると、補助金の仕組みも違い、すぐに対応でき、購入できることが大きく違うと実感しています。ネット環境もあり、オンラインの研修など、研修を生かしやすいというような要素もあり、矢川プラスとの連携も行いやすい環境であるよさをとても感じていました。

新園舎で実際に生活する中で、課題や改善が必要なこともあり、試行錯誤しながら環境を整えていました。園庭での大人のつき方も広い範囲で、これまでにはなかった遊具遊びの安全を考慮するなど、大変に感じる場面もあったということもあります。異年齢のつながりは、見渡せる環境で隣のクラスと声を掛け合うよさと、刺激がたくさんあることで落ち着かないという見方と、両方ありましたけど、仲間と共に育つ環境を大切にしているところは変わらなかったです。

雨の日も、思い切り体を動かす場所と設備があることは大きな変化となりました。開園して3年目以降は取り入れた保護者サービスなど、詳しいことは私は分からないのですが、公立ではすぐにできないことを、環境づくりなど、進めやすいことが民間のよさの1つだなというふうに感じています。

今後に向けてですが、派遣職員がいなくなったときの関係性を一緒に考えていけるとよいと思っています。人がずっとつながって今があるということは大切に考えて、ふらっと遊びに行きやすい地域の保育園となってほしいというふうに願っています。子どもたちの育つ環境づくりを引き続き大切にしていき、職員が意見を出し合って物事を決めたり、プロセスを大切に、日々積み重ねたことを継続してもらえると、うれしいです。

今後、民営化を進めることがあれば、引継ぎは移行前に委託先の職員を配置したり、一緒に保育をして、職員間、子ども、保護者の関係をつくってから、新しい生活に見通しを持ってスタートすることがよいというふうに感じています。派遣期間の検討も必要かなというふうに思います。日常の保育と並行して、現場の職員が移行準備をすること、業務がとても多くなるため、市で業務を担当する職員を確保してほしいというふうに思っています。

財政健全化のための民営化でありましたが、実際にどのような財政的効果が得られたのか、具体的

に知りたいというふうに思っています。

また、ICT化などを取り入れる場合は、移行前に早めに準備ができるとよいと思っています。

最後になりますが、いろんな形で継承については反省するところも、私の中ではありますが、今の矢川保育園の状況について、2点だけ聞いてみたいことがあるので、教えていただければと思っております。

今、大切にしているところはどんなことですかということ、継承していきたい内容というのはどんなふうに捉えていらっしゃるでしょうかということ、2点目が、これまでの保育を引き継ぎながら、時代の要請に応答し、さらによい保育や保護者支援を實踐できるよう、日々語り合いを重ねながら、保育の質を高めると、事業計画書に書いてあるんですけども、職員が議論しながら進めていくことは継続していますかということ。

また、時代の要請に応答した内容として実施していくことが決まっていたら、どんなことかなというふうに知りたいと思っています。

思ったまま、長々とお話ししましたが、すみません。これから、矢川保育園に微力ながら関わって、地域の中で子どもたちが安心して育つ役割を担う保育園になるために、できることを取り組んでいきたいというふうに思っています。民間の力を生かすという姿勢も理解できますが、重要なことは、しっかり市の立場で環境を整えていくことも必要なのではないかとこのように思いますので、検証を終えて民営化を進めるという判断は慎重に行っていきたいというのが私の願いです。

以上です。

【竹内会長】 大変丁寧なご説明をいただきまして、本当にありがとうございます。皆様方、たくさんのお意見をお寄せいただいたと思います。とても大切なことをたくさん教えていただいたと思います。どうもありがとうございます。本当にお忙しい中、ありがとうございます。

議事では、この後もっと質疑をということで、いろいろ聞いてみたいという委員の方、たくさんいらっしゃると思います。いかがでしょうか。

田中委員、お願いします。

【田中委員】 田中です。保育現場から、そして、管理者としての園長先生の立場、途中で新しい矢川保育園というところから公立園に移られたという立場で、まず、感想という大変ですけども、多分、私も含めてかと思うんですが、公立園のことを私はほとんど国立市のことを知らなかったし、それから、公立から民間に移るときに、市が新しい事業団をつかって、そこに移す場合の、例えば5歳児担任の異動とか、これアンケートにいっぱい職員の方から書かれていましたけども、約束を破ったんじゃないかとか。現場のところと、それから全体を見通して、お二人の話を1時間近く聞く中で、本当にありがとうございました。

これまでの経過と、それから、公立園の職員の立場ではあったとしても、いろんな事実、思い、それから、移行に向けてのプロセスと内容など、詳しく分かりました。その上で、1つ、事務局のほうに伺ったらいいのか、私たち、アンケートをまとめてもらったものは丁寧に送ってもらっているんですけども、今日の中身は、とても大事なことがすぐ入っていると思いますね。

まして、これから、あと3園ある公立園の民営化に向けたところの人的、財政的、内容的とか柱はありますけども、それを踏まえても、とても大事な中身が、お二人の先生方から話されたように思います。そのところは審議委員のほうに次回までにとか、そちら、公立の方たちの了解を得つつ、じかにそれをメモするところは少しでもしたんですけども、きちんとそこを踏まえたいといいま

すか、そのことはとても大事と感じたもので、思っているんですが、会長もしっかりまとめてくださっていますけど、そこは事務局のほうではどのようにお考えでしょうか。

【事務局】 事務局の川島です。本日の内容については、確かに発言だけというところもあるので、ここは評価検証をまとめていく中で、きちっと明文化した形を出していかなければいけないと思っておりますので、2人の発言の内容はまとめさせていただいた上で、すみません、タイミングは、どのタイミングになるかというところはありますが、まとめさせていただいたものを、委員の皆様にも今日のまとめみたいな形で提供していきたいと。

当然、議事録のほうも作らせていただくんですが、ただ、その内容から、ある程度抽出した内容というか、まとめた内容を、委員の皆様にもお示しはしていきたいというふうに思っております。

【田中委員】 田中です。どうぞよろしくお願ひします。きちんと柱立てをして、整理して、生かせるものが相当に、大事なものが言われているように感じます。

私は、民間保育園でずっと男性保育者として、後半のところは、建て替えを含む形で施設長としてやってきて、公立のことはほとんど知らないんです。今回のところで、今、公立園からの新しい園への法人に移行する際の市の関与の在り方、市との共通理解と、そここのところに対しての必要な話合いといひますか、違ひも出る場合もあるかと思ひうんですけども、そういうことのところを、1つはきちんと見ていかなくちやいけないうふうに感じます。

それから、同じようなことが、新たに法人として夢・未来事業団でしただけ、そこで受けていく、確かに理事長さんは大変、立派で偉い先生ではありますけども、今度、事業団のところと、市との関係のところも、大きな、私たち、民営化を受ける場合には、民間の立場でもって、法人として受けますから、ある意味、5年間の引継ぎ期間といひことは普通はないうです。2年くらいですよね。

私の園のところも、墨田で1園目に公立から民間に受けたところでしたけれども、その場合に、しっかりと、その辺のところがあるかと思ひます。どの程度、事務局のところでもって法人とつないでいられたのか、そここのところがあるかと思ひます。

以上です。

【竹内会長】 お越しいただいているお二人に、ぜひお聞きしたいといひところがあれば、委員の方、いかがですか。

【渡邊委員】 すみません、5歳児担任の異動のあれなんですけど、今の理事長先生って、汐見先生、そういう有名な方、僕は全然知らなかつたんですけど、卒園式のときに、その先生を初めて僕は見たんですけど、そのときのお話、覚えていますか。多分、松葉さんもいたと思ひうんですけども、卒園したときに、また担任の先生に会える保育園をと、そういうお話をしていたんですけども、結局それ異動させちゃっていたんで、理事長先生、分かつていてお話ししているのかなといひのは、ずっと心に残っています。

先ほど、理事長先生との話合いがあまり、最初の設立のときもといひような話をちょっと聞いたので、本当に理事長先生との話を分かつているのかなといひのは、疑問に思ひます。

【竹内会長】 お越しいただいている先生、今の点に関して何かご存じならお答えいただいているですか。

【佐伯園長】 本当に2人で同じようなことを言ったんですけど、5歳の担任の異動に関しては、開園してから、保護者の方に本当に申し訳ないようなことだったなといひうふうに思ひているところなんです。異動の内示は2月終わりなので、その後、3月の卒園式までの間の2週間ぐらいが、結構、とて

もつらい時期ですが、保護者の方にとっても同じだったと思うんです。

その後卒園式だったので、1年目ということもあったので、あまり来る機会がなかった理事長さんも、そこでお会いする保護者の方がというような場所でした。そこでのお話とかは、私もとても心に残っているので。これから、今はもう少しよくお話をして、進めてこられているかなというようなところがあるので、最初の段階に、もう少し多く打合せをしたりとか、意思確認をしたりとかっていうところをしなければいけなかったところがあります。現在は、前よりもきつとやり取りをされているというふうに思うので、理事長としての方針等も、園の中に入っているのではないかなというふうに思うところは、想像ですけど、あります。

【竹内会長】 竹内です。そのときには、恐らく情報共有が間に合わなかったもので、卒園した後も会いに来れるというのは、情報共有していなかったゆえというのが、ご質問の趣旨だと思うんですけども。

【渡邊委員】 それはまずいですよね。そういうお話、しましたね。

【佐伯園長】 遊びに来てねというふうに言ったので、知らなかったのかなというふうに思っております。

【竹内会長】 ありがとうございます。ほかにいかがでしょうか。

【竹本委員】 一言、感想なんですけども、竹本です。私は、我が子を公立園でお願いして、育ててもらった経験の一保護者の感覚もあるんですけども、保育で大事にしていたということは、すごい伝わってきました。感想を一言なんですけども、お二人のお話を聞いていて印象的だったのは、目に見えないところの継承であるとか、思いであるとか、話し合っていくとか、主体性、つながるみたいな、そういう大事なキーワードがすごい盛りだくさんだったと思うんです。

実際、今その話合いの時間が少なかったかなとか、ちょっとした反省の感じに受け取ったんですけど、そういったところがあるのかなというふうに予測すると、どうしてそれができなかったのかなというのが、ちょっとずつ言葉ではあったんですけども、改めて何かお二人が、そこをどうして、そういうふうなところがうまく伝わらなかったのかなというところを、もうちょっと聞きたいかなというふうにも思いました。

【佐伯園長】 そうですね、私の感覚がちょっと違ったのかもしれないですけど、のんびり移行していけばいいかなと思っているところがあった中で、4月から新しい生活でばたばたすることを予想していたんですけども、プレハブに引っ越してきたときも、少し時間はかかりましたけど、安定して環境が整えられたというようなこともあったので、ちょっとたったら落ち着いて過ごせるかなというところがあった中で、なかなかその1回目と2回目の引っ越しの違いを、多分認識がずれたのかなと思うんです。

法人、運営が変わるということがこんなに大きいんだなというようなことを、いろんなところで感じていて。環境を整えていくということを、1人ではできないので、職員はすごい、本当に全力でやってきているという中で、日々のことがたくさんあって、話合いをというところの十分な設定だったりとかというところにまで力が足りなかったのかなというふうには思っています。

あとは、派遣の立場で一緒に考えていこうというところはたくさんあったんですけど、このまま同じように、同じ保育を、変わらないようにしていきましょうということは1回も思っていなくて、一緒に考えていきましょうというようなことを、みんな共通して思っていたんです。けれども、一緒にというところの、そうだねというようなことが、なかなか考え方とか、それぞれ違う中で、現在も公

立の中でも皆同じ考え方かという、そうでもない、それは公立・私立関係ないと思うんですけども、そうだねというところが、思いのほかたくさんできなくて、少し先延ばしにしてしまったような結果もあったところも、十分反省点の1つだと思っています。

【竹内会長】 まだご発言していらっしゃる方、いかがですか。お願いします。

じゃあ、私、竹内、よろしいですか。そうですね、「想い」という部分、私、卒園した子がいつでも遊びに帰ってこられるような、地域に密着した保育園、この中に、こちら冊子、これは2018年に皆さん、お作りになったんですが、最初に、中学生になっても保育園が懐かしいという、非常に楽しそうな写真が胸熱ですね。何とも言えない。

うちの子も、国立市の保育園さんにもお世話になりましたし、別のところでは、公立保育園にずっとゼロ歳からいて、本当に小学校で過ごす時間より長い時間を、共に育つ場として過ごさせてもらったという思い出というか、ずっと残っている。本当に思い切ったときに、なかなかそれを書いて表せるかというのは難しいなと思いました。

今のご質問にも関連するんですけども、1年目は園長先生として入って、いわゆる制度的な立てつけとしては、これまでの長い伝統なり、思いを知っていらっしゃる方が園長に入るので、それがそのまま、新しい園の園長先生を通じて引き継がれるのであろうという気は、何も知らない素人からすると期待はするんですけども。

何かそこが必ずしもうまくいかなかったかのような印象ですが、それはどういう。例えばプールをやめるにしても、備品もあるし、やろうと思えばできたかもしれないけど、例えばほかの人たちの反対があり、そちらの声が大きかったのでやめたとか、あるいはトップから、「それは危ないからするな」という業務命令のような形で来たのか。その辺の解像度をもう少し上げて、お話しただけでないでしょうか。

【佐伯園長】 1年目、2年目、私がいる間は、まだコロナの感染の対策が並行している時期でしたが、プールに関してはできる限りやっていました。なので、できる方法を、初年度から園医さんとも相談して、クラス別だったりとか、人数を少なくしてというようなことでやってきました。コロナ禍でも、このことをできる方法は、どんなふうにしたらいいかなというところは話し合って進めてくれたんです。

例えば、そのときに感染症がはやったから、急にできなくなったこととか、夏祭りだったりとか、ずっと保護者の人と一緒にやってきたことが再開できなかったりとか、そういうことはありました。

【竹内会長】 竹内です。もしですけど、コロナがなくて、行事をそのままの形で、新しい園でも、旧来のやり方をまず現場の職員さんと一緒に共有していれば、もしかしたらですけど、職員さんも、これは残して続けたいなと思ってもらえたかもしかかもしれないですか。もうそれは分からないんですけど、コロナによって全部やめてしまったので、それは今までどうやったのか、見る機会がなかったというのもあるとは思いますが。

それとも、仮にコロナなくて、ちゃんとやっても、園長が代わったら、新しい保育園をつくるんだということで、全部、今までの、一旦ゼロベースで話し合いになってしまっただけなのか。その辺、どうですか、感触としては。

【佐伯園長】 コロナのことがきっかけになる部分もあるとは思いますが、現在でも、行事に関して、公立でも、今までのことについて、もう一回考えてみようというようなことで、今までやっていたから、このとおりやるんだよということではなく、この時期の子どもたちの今の現状に対して、

どう思うというような話はしてきているので、コロナのことが1つの要因になったこともありますけど、今も見直しながら進めていくので、何かのためになくなっていくというよりは、納得してそのことを変更していくかということが重要なのかなというふうには思っています。

【竹内会長】 ありがとうございます。何かあれば。

ほかにいかがですか、じゃあ、もう一度、田中委員、お願いします。

【田中委員】 田中です。こういった部分、とても微妙な問題でもあり、それは残っている職員の方が5年間、引継ぎを含めて公立の方が残っている格好。それから、受けている方と。通常であれば、先ほどのような、数年でもって移行期間で、いわゆる一般的な社会福祉法人のところに移行ということでありまして、ある意味、もっと見やすい状況があったかと思うんです。

でも、これは国立市の考えもあって、公立のこれまでの積み重ねられてきたものを残そうとか、先ほど、園長さんのお話の中に、理事会の参加は傍聴であってということもあって、多分、事業団でも、理事会の形は私がイメージするものと似ているだろうなというふうに思うんです。そうした理事会、または評議委員会の中なので、予算・決算も含めた事業計画とか、事業の総括とかされるわけですけども、そういう中で聞きながら、あれ、そのところ、どうなんだろうとか、内容として残っているもの、または発言できたら、そこで言いたいな、なんていうようなことを、もし記憶されているとすれば、教えてください。

【佐伯園長】 本当に私、公立しか知らなかったもので、初めての理事会というものの経験だったりするので、こんなふうにするんだとしか思わなくて。あとは、私が管理職でないということは、園長として矢川保育園でやるということから、市のほうから言われてきているので、理事ではないというふうには聞いていたんですけど、やっぱり本来は、保育園のことを聞かれたら、同じような場でお話しできたらいいのかなというふうに思っているもので、今、入って、お話が進んでいるということはいいことだなというふうに思うんですけど、私の立場からは、難しくてよく分からなかったんです。

特に、疑問ということはなく、進んでおりました。

【田中委員】 ありがとうございます。

【竹内会長】 竹内です。続けて質問させていただきたいんですけど。佐伯先生のおっしゃるところでは、30回を超える打合せを行ってきただけというふうにご発言なさっていたと思うんですが、これはどこで、どういうスパンで、30回、誰が集まったイメージでしょうか。

【佐伯園長】 この資料全部、会議資料なんですけど、検討部会というものがありましたので、設計に関しての検討部会が、各園から出ている状態と、建築の方や、保育幼児教育推進課の係や、設計の方というところで、スパンは何年から何年と……。

【竹内会長】 それは、新しい園舎設計に関わる方と、今いる方が30回と、かなり密になっている印象はあります。

【佐伯園長】 そうです。

【竹内会長】 あとは、すみません、民営化通信をずっと読んでいくので、一番最後は、社会福祉法人くにたち子どもの夢・未来事業団ができましたと。理事が紹介されて、一応そこで終わる感じなんです。理事のほうを見ますと、馬橋さんが事務局長に入って、また教育委員のほうですか、ですけど、現場で一番知っている方というのは、ここには、理事のメンバーには入っていない。現場を知っていらっしゃるの、国立市立保育園長会会長の国立あおいと保育園、園長さんの佐伯元行様が理事に入っていますけれども、公立の人は入っていない。この理事会には、何回ぐらい傍聴した

んですか。実際、民営化された後、傍聴というか、陪席したんですか。それとも、民営化される前からいらしたんですか。

【佐伯園長】 民営化されてからの理事会が、多分年に4、5回、評議委員会に毎回出ていました。

【竹内会長】 民営化の前には出ていないんですね。ただ、検討部会というような名称の会議には30回を超えて、密に。後でその会議資料を拝見させてください。ありがとうございます。

ご発言なさっていない方に。いかがですか、ぜひお願いします。

【久米委員】 委員の久米です。いろんな方の質問で、私も同じ、感じたり、聞いてみたいなのということがあったので、その辺りは省かせていただいて。

先生方のお話を聞いて、公立の先生方は、本当に役職関係なく、皆さんでよく話し合いをされるという印象がすごく感じられたんです。私も、公立で働いたことはなく、私立だったり、学校法人だったりとか、様々なところでは働いていて、子どもたちにコミュニケーション力をつける対話を大事にしましょうって言っている大人が、話し合いができないのはおかしいなあって、いつも思うので、なるべく対話は大事にしていこうと思っています。

公立の先生方がどんな形で対話しているのかなあなんていうのも、園長として聞いてみたい、参考にしたいなというところもあるんです。これだけ対話を大事にして、みんなの意見を取りまとめているというのは、それは本当に大変なことだと思いますし、経験値が違ったりとか、例えば栄養士さんと保育士、看護師と立場が違えば、考え方も違ったりとか、そういうこともまとめていかれたり、様々なことはされていたんだろうなと。

ただ、今回、あれ、対話ができなくてこういうことになったのかなというところ、すごく擦れ違いを感じたのですがというのが、まず印象なんです。なので、公立の方々との対話、市であったり、新しい事業団だったり、現場の方々との対話がうまくいかなかったのかなあというのが今の印象です。

やっぱりピンチがチャンスと、私はいつもどんなことでも考えているので、うまくいかなかったことを、これだけいろいろ分かりやすく説明していただいたので、これを次につなげるためにはということ、今までたくさん対話されてきた公立の先生たちは、どういうふうにしたらいいかというお考えも聞かせていただきたいなと思いました。

【佐伯園長】 ありがとうございます。本当に話し合いをして、合議制で何かを決めるということって大変だなと思うところもあるんですけど、そこに自分たちの意見を、自分でしっかりと考えられる職員集団というのは、先ほどお話があったように、子どもたちに、こんなふうに自分の意見をお話しできるような人になってもらいたいというような表現の部分であっても、一緒だと思うんです。

それぞれの考えが同じでなくても、違っていいというようなことを出せる関係性というのはすごく難しいんですけど、それは重要なことだなと思うので、安心して子どもも表現できる環境が必要だと思います。

そういうふうに、職員の中でも、これ言っているのかな、これ駄目かなということがなくて、話せるような会議だったりを持っていて、全体の中でお話しできない方でも、少人数だったりとかはできるというようなことだったり、あとは得意分野だったり、係ごとで自分で力を発揮して全体の中での役割を担うとか、いろんな方法を試して、混乱してしまったところもあったんですけど、一部の人が何か発信をしていくというような職員の関係性よりは、それぞれが役割を担って、しっかりと何か自分の考えの下に、協力して一緒に行っていくというような、チームとしての役割というのが重要だなと思うので、そこは1回違う方法を試したときに感じたところでもあるので、発見でもありました。

あとは、そうですね、人との関係は、短い時間ではまだ難しいので、少し時間をかけていくところがあるかなあというふうなところはあるので、保護者の方と長い間の中でいろんな話ができるようになったように、なかなか短い期間ではというところもある時期があると思うんです。

引継ぎのところでお話ししたように、引継ぎは一緒にこれから保育をしていくという方と、安心してこの状況と一緒に保育していきましょうという、前のときに引継ぎをさせていただいた、今の園長先生の引継ぎの期間がとてもいいなというふうに思ったので、今の本当の姿で、いろんな新しいことがない前に、引継ぎをしているときに、内容や、子どもたちや、保護者のことや、保育内容を伝えるということよりも、その方との関係を築きながら伝えていくというような時期が、新しい生活の前には大事ななというふうに思ったので、引継ぎに関しては、ぜひ移行前にしっかりと人員を配置していきなというふうに思っているところです。

お答えになっていないかもしれませんが、すみません。

【竹内会長】 ぜひお願いいたします。

【清水保育士】 私は、個人の感想みたいになってしまうんですけど、15年弱、入職して保育士をやっていますが、もともと矢川保育園にいた公立職員の先輩方含め、一緒に働いてきたメンバーは、どんなに若手が意見を言ったとしても、いいね、やってみようって言ってくれる環境だったと思っています。

なので、私自身も新人の頃に自分の意見をちゃんと持って、言いなさいと、先輩方から教えてもらって来ました。後輩が入ってきたときに、そういうものだと思って、当たり前のようにやってきましたが、先ほども言いましたが、私たちは継承してほしいと言われて、派遣されましたが、事業団職員は一体何と言われて入ってきていたのか。当時の馬橋部長が理事長にどんな話をして、新しい職員たちにどういう話をしていたのか、いまだに私は知らなくて、そこが分からないと、評価検証というのは難しいのかなというふうに思っています。

今も矢川保育園はいろいろやっている途中だとは思いますが、その土台、スタート地点が違ったことによって、そういうふうなずれが起きてしまったのであれば、やっぱりスタート地点はしっかりそろえるべきだったのかなというふうに思います。なかなかその辺が下りてこなかったというもどかしさもあり、今現在の矢川の状況も、私はちょっと分からない部分もたくさんあるんですけど、なぜそういう今の状況になってしまったのかは、もともと派遣されていた身としては気になっていますし、公立の残り3園も一緒に民営化のときに考えてきた職員も、経過を知りたいと思うんです。

なので、その辺は、当時の部長を含め、どうして今の矢川保育園がこういう形になったのかというところは、しっかり評価検証してほしいなというふうに思っています。

【竹内会長】 久米委員。

【久米委員】 久米です。ありがとうございます。私も、職員たちと過ごすときに、すごく話合いとか、一人一人の思いとか、特に、園長になればなるほど遠慮されちゃうのは嫌なので、何でも話せるような環境はつくっていかうと思って過ごしています。それは公立であっても、民間であっても関係ないと思いますし、子どもにとっていい環境をつくるためには、周りの大人がみんな力を合わせることで、いろんな思いがあつての思いを、お互いを尊重し合いながら、まとまっていくということは、子どもにとって本当に一番いい環境ができることだと思います。

新園だろうが、公立だろうが、民間だろうが、子どもにとって一番いい環境をつくるのが何よりも大事ななと思っているので、公立さんの、お互いの意見を尊重し合うという文化はすごくいいこと

だなって、それが統一されていることは大事なことだなって思います。

その中で、やっぱり傾聴の姿勢というのもすごく大切にされているんだなと思いますし、傾聴の姿勢についても、もっともっと発信をしていかれたらいいんじゃないかなと。話合いが成立するという事は、一方的に何かを伝えるとか、知らないうちにやるのでなく、違う意見であっても、同じように伝えて、傾聴してというのがバランスよくできれば、きっとできるんだなということを感じたので、その辺りも丁寧にやっていくべきなのかなというのを感じさせていただきました。

すみません、結局私の意見でもありました。ごめんなさい。

【竹内会長】 ありがとうございます。竹内です。関連して、何か少し空気の違いみたいなものがあったような印象ですけど。例えばですけど、こちらを拝見して、もちろん決してこの思いというものが文章にできるわけではないんですけど、それでも何かあると、どんな言葉を使うのか、どんな人たちを使うのか、どんな順序で、どんなレイアウトでというのは少しずつ伝わってくると思うんです。

おっしゃった理事長が事業団のほうから、矢川はそうかもしれないけど、取りあえずうちはこういう気持ちだ、思いだ、哲学だみたいなのが、こういう形で共有されたんですか。共有してもらったとか、提示されたんですか。

【佐伯園長】 特に形にはないのですけれども、保育理念だったりとか、最初に掲げる内容については、公立に準じたような形で、インクルーシブとか、そういう内容を織り込んでいながら、事業団独自のものをつくっていったという経過があるので、ベースは国立市の保育方針というところに倣った事業団の方針だというふうに思って、そこの中に少し独自性を入れた内容だったり、園目標を変えるという話も全く出なかったんで、そのままの保育の内容を、私たちと進めていくというようなイメージで、民間であっても、矢川保育園は矢川保育園としてというような意識で、新園に関しては思っていたので、特に細かい説明だったりというところはいただいているとは思いません。

【竹内会長】 けれども、何か現場で、一部の現場かは分かりませんが、何か違和感が強かったような声もいただいているのは、どうしてなのでしょう。何人かの方は、継承がされていないんじゃないかという強い思いを持っていらっしゃるのはどうしてなのか。はなから全然違う哲学の人が来て、やり方を変えるぞみたいなところから始まったのなら、何となく想像がつくんですけど、基本、園の目標も変えないというところだったのに、なぜ一部か、全体か、分かりませんが、齟齬があったのかというのは、いかがでしょうか。

例えば、理事長は現場にも来ないのに、来た日だけ、これは違うと、全部口を出して帰っていくとか、何かワンマン社長とか、民間の中小企業のイメージがありますが、決してそうではないんですよ。そうすると、どうしたイメージなのか、それが次につながると思うので、ぜひ教えていただきたいんですけど。

【佐伯園長】 合っているか分からないんですけど、大きくは、公立ではないんだからというようなワードが結構多くて、そこから、公立じゃないけど、私たちの保育園の内容をということの民間であるのは重々分かっているんですけど、民間のこれからの生活というか、そういう園であるということとすぐに重視しなければいけないというところに、私は戸惑いを感じて。

民間であることは間違いないんですけど、その辺りの特徴をすぐに出していかなければいけないというように、私はあまり思っていないで、保育の土台は、今までの保育園の内容なので、公立か、民営かというところは違って、サービスだったり、これから取り入れていくことは、民間の中のできる

ことが増えていくのかなという、良いところを思っていたんですけど、その区分けの認識がちょっと違ったかなと。

【竹内会長】 さらに教えてください。例えば、新しいことをするとき、現場では無理ですといったときに、もう公立じゃないんだから、このサービスをどんどんやってみようと言われたのか、あるいは公立らしいやり方をやったときに、それは古いからやめろと、もう公立ではないんだからって言われたのか、どっちの感じですか。今の記憶の範囲、イメージでいいんですけど。結構強い言葉ですね、もう公立ではないんだからというのは、場面によっては。

【佐伯園長】 そうですね。もっと、どんどん考えていかなければいけないんじゃないかというような意向はあったかと思えますね。すぐにそこに考えに至らず、えっと思ったところが私の中にはあり、あれもこれも、そんなにはすぐに、民間になったからといって、安心して過ごせるようになってからでもいいんじゃないかなと。

実際に進められたことは、私の2年間の中では事業としてはあまりなくて、進められてはいないんですけど、何かそういうところがありました。

【竹内会長】 ありがとうございます。

【田中委員】 1つ、よろしいですか。

【竹内会長】 はい。次、数納委員ですので、数納委員、次、お願いします。

田中委員、お願いします。

【田中委員】 田中です。先ほど、お二人の、佐伯先生のところでもお話もありましたし、それから、今会長のほうからも聞かれていることにつながるんですけども、とても端的に今のことを、私たちしかもらっていませんけれども、書かれているものがあるんです。番号で言ったら192なんですけれども。

全部読みませんので。国立の保育を継承することを目的とした民営化であったものなら、既存の運営母体ではなく、事業団設立は正解だったと今でも思う。

【竹内会長】 読み上げないで、要約してください。

【田中委員】 やはり、事業団のところと、市が事業団に委託をしたその中身と、事業団と新たに公立のほうから来ている方たちとの溝といいますか、そこところが最初からはっきりと、通常の民間委託と同じような形でもって、事業団の方たちが受け止められてやっている。そこでもって、公立のほうから来ている派遣の方たちの苦しさとか、いろんな感情の問題とか、日々の中で、スタートのところがぐっと次第、次第にもつれていったということがあると思うんです。

もしかしたら、ここに書かれたようなことがもう少し早い時点で意思疎通ができていたとすれば違ったのかなと思いますし、今後に生かせることでもあると思うし、今の矢川保育園の中でも生かしていきたい。それは、対話を大事にしてきた保育を公立の中で積み重ねてきたから、そんなふうに感じます。

以上です。

【竹内会長】 ありがとうございます。数納委員、よろしいですか。

【数納委員】 数納です。頂いた資料だったりとか、いろいろ読ませていただく中で、私も清水先生のおっしゃったことと同じで、事業団さん側のほうの意見だったりとか、あとは、どこかで説明があったかもしれないですけども、既にある社福さんに民営化するのではなくて、市が立ち上げた事業団が民営化するというところの大きな意味というのを、もう一度認識したいというか、考えたいと

どうか、そこが大事ななというふうに、私は思いました。

それが市の、市立の保育園の保育を継承するというのに意図があったと思うんですけども、その辺が、じゃあ、どうしていこうという保育園さん側の思いはすごく分かったんですけども、事業団側さんがどういう思いでやってきたかというのを知るのは、この後、大事ななというふうに思ったこと。

私がちょっと気になったのは、引継書にどういうことが細かくとか、いろいろ書かれていたのかなというのが気になりました。

以上です。

【竹内会長】 引継書のこと、お答えいただけますか。

【佐伯園長】 引継書に関しては、私たちが作ったもの（事務局注：「矢川プラス～私たちの思い～」）があって、あと民営化のガイドラインみたいなものもあるので、それにのっとって法人のほうに委託を受けたというようなことなので、細かいマニュアルだったりというのが、もともと公立はあまりなくてというところもあったりするんですけども。マニュアルではなくて、今、お渡ししている内容が職員間の共有としてまとめたものです。

なので、すごく細かく、緊急対応だったりとか、そういう普通のマニュアルはあるので、それは引き渡しているんで、そういうマニュアルはあるんですけど、保育の内容というところの部分に関しては、今お渡しした私たちの思いというようなことに少し集約したような形で、文章化をあまりせず、一緒にこれからつくり上げていくというイメージで、仕上がったものではないというもので、一緒につくっていきましょうというものにしていくつもりでした。

【竹内会長】 ありがとうございます。能登屋委員、お願いします。

【能登屋委員】 保護者の能登屋と申します。よろしくお願いします。お話を聞いて、感想というか、要望というか、まともにはないんですけども、やっぱり私立と公立で、保育士さんもきつと育った環境も違う中で、なかなか擦り合わせていくというのはすごく難しいだろうなというような想像はしています。今回のこのアンケートを見て、やっぱりなと思うところは確かにあって。

でも、確かにこの5年設けられたのは、子どもたちにとってすごくよかったと思いますし、こういう葛藤がある中で、子どもはすごく楽しく過ごせているので、本当、先生たちはご苦労されているんだなと思って、いつも感謝しかないです。

ただ、これから民営化をいつか、近い未来なのか、遠い未来なのか、していくのか、するのかどうかもよく分からないんですけど、要望としては、猶予期間をもう少し長く持てるのであれば、派遣期間を長くしてもらったりとか、あと、園長先生も理事の傍聴ではなくて、ちゃんと理事として少し会議できる場所があると、もっともっとよくなるのかなと思います。

あと、事業団が多分これから何年もやって、矢川保育園にどんどん保育士さんが増えていって、多分事業団がきつとまた民営化したら、その職員が多分新しい公立園を担っていくと思うので、そうすると事業団でいろいろ培ってきたところ、もちろん市から受け継いできたところを、新しい視点も含めてどんどんよくなっていくと思うので、そうすると、今回出てきたことも、課題よりも少なくなっていくんじゃないかなと思うので、そこは今回こういう場があってすごくいいなと思っています。

あと、5歳児担任が異動されちゃうお話についてなんですけど、派遣終了で市に戻るとするのは、市が決めるのか、それとも法人が、この人は市に戻しますと決めるのか、双方で協議が決まるのか、よく分からないんですけど、いずれにしても、保護者の身として、5歳児が卒園して、小学生になっ

て戻ってきたときに、先生がいないというのはすごくショックだと思うんです。子どもも、保護者も、新しい環境になって、不安になって戻ってきて、また知っている先生とたまたま会って、勇気づけられるところはあると思うので、そういったところから、小1って、小1プロブレムとか、そういう問題もあるので、卒園した後も、子どもたちが国立市で元気に過ごしていく方法をとれるといいのかなって感じました。

まとまっではないんですけど、感想とさせていただきます。

以上です。

【竹内会長】 ありがとうございます。

【宮田委員】 ありがとうございます。宮田です。ご説明ありがとうございます。原稿を用意していただくとか、そういうことを思うと、本当に貴重な時間をいただいたなというふうに思っています。

もう時間がないかなというふうに思いますので、短くなってしまいうんですけども、ポイントといえますか、最も気になったという点だけお話しさせていただきます。引き継ぐというのが難しい言葉なんだと、改めて、様々な意見を伺って思いました。先ほど引継書というのはどういうようなことがあったように、引き継ぐというと、いろんなものがあると思うんです。仕事そのものなのか、あるいは想いというような理念みたいなものなのかとか、ものなのか、場なのかと。いろんなものがあるなど。

それと、引き継ぐという言葉と、合議制というのは結構、対話とか、そういう話が出てきていると思うんです。頭の中でそれがマッチするようで、しなかったんです。それで、清水先生が「いいね、やってみようか」というふうに言ってもらえてたっていう話を聞いて、そうかというふうには思ったんです。

合議制というと、多分Aさんという意見があって、Bさんと意見があって、多分それは同じにはならないし——なるときもあると思うんですけど、そのときに、いかにCという新しい考えを生み出すか、ここがすごく重要だと思うし、すごく難しいところだと思うんです。一方で、引き継ぐというと、Aさんの思いが、その次の人の代にそのまま行くというイメージなんです。だから、引き継ぐという言葉と、合議制というのはすごく難しい言葉が使われているので、それを理解するのになかなか難しかったんです。

でも、例えば「いいね、やってみようか」みたいなことが数多く起こっていたならば、もしかしてその辺りのもやもやも解消できたんじゃないかなと思って。できていたか、できていないかということまでも、まだ今、不明な段階ではあるんですが、少なくとも、お話を伺っていると、新しいCという意見を構築させるまでには、まだ至っていないというところとか、至らなかったというお話だったのかなと思いました。

一番その下で気になったのが、国立市の保育を引き継いでというふうなところで、先生方が一生懸命いろいろつくってくださったことと、新しい園をつくるんだぞというところで、あるときから変わったなというふうに感じられたんじゃないかなというふうに思うんです。ここ、変わったというか、ずれたなと感じられたときの理由とか、どうして、今違う流れが動いているのかなというときに、理由が聞けるとか、あるいは、そのとき何か納得することができたならば、また違うのかなというふうに思ったときに、この辺りが次回、これが、今後、もし次というふうになったときに、ポイントになるところなのかなというふうに思いながら、伺ったりもしました。

先ほど清水先生からも、どうしてこのようになったのか知りたいというようなご発言があったというふうに思うんですけども。また、今もう時間が過ぎていくかもしれないですけども、何かずれが生じたときに、例えば今ご経験されて、あのとき、もしこういうことが起こっていたならばとか、こんなことがあれば、そのずれも少し解消できたかもしれないのに、みたいなアイデアみたいなものがあれば、ぜひ伺っていいのかなと思いました。

外側から見ると、いいアイデアは思い浮かばないんですけども、例えば研修を組んで、定期的に外部の先生も入れてとかで、話し合う機会をとにかく強制的にでもつくるとか。そういうのぐらいいいか、今思い浮かばないんですけども、経験者だからこそ、こういう機会がもうちょっとあったほうがいいのではないかといいところがあったら、今日は時間がないかもしれないんですけど。また教えていただけるといいのかなという、そういう感想です。

以上です。

【竹内会長】 ありがとうございます。時間も押してきましたので、まだまだたくさん聞きたいこと、おっしゃっていただきたいことがあると思うんですが、時間の関係で、今日はここまでにはなると思います。また引き続き、いろいろなことを教えていただきたいと思います。

委員、おっしゃっていましたが、大人たちが力を合わせて子どものためにと、ここでは皆さんも同じ意見というか、同じ思いであることは間違いないので、いろいろな大人の事情で、それこそ変えなきゃいけないことがあって、子どもたちを巻き込みながらやらざるを得ないんですけど、次は少しでもその失敗談を次に生かして、失敗を減らしていこうと。

あとは、どうしても失敗が目に入っちゃうんですけど、すごく頑張って、実は本当はもっと失敗なり、やらかしがあつたかもしれないんだけど、実は未然に防いでくれた人たちもたくさんいると思うので、それちゃんと継承するというか、次回に生かせるように、うまくいっている部分にも光を当てつつ、資料を作って、次回に生かしていきたいと思います。

本当にいろいろ悩ましいところがありますが、教訓に満ちたことを教えていただいたと思います。これからも、引き続きどうぞよろしくお願いいたします。ありがとうございます。

本当に、ううんとうなってしまう気持ちですよね。

議題2に移りたいと思います。事務局から説明をお願いします。

【事務局】 それでは、議題2「その他」についてでございますが、まずは次回の事業団職員さんを対象としたヒアリングの対象者についてのご報告になります。前回の審議会におきまして、主任さん、リーダー級の職員さんもヒアリング対象としてほしい旨のご希望が出ておりましたが、その後、事業団さんと調整しましたところ、先ほど少しヒアリングの中でも話がありましたが、現在、主任が欠員状態とのことでございます。

副主任というポジションの方はいるそうではございますが、審議会の説明員として出席をするというのは、ちょっと難しいというようなことでございました。つきましては、申し訳ございませんが、事業団との調整の結果、第2回審議会でご出席いただいた事務局長や、園長の方に再度出席していただいて、本日と同じように、園の皆様の意見なども聞いていただきながら、次回ヒアリングを受けていただくことにさせていただきたいと思います。何とぞご容赦のほど、よろしくお願いいたします。

続いて「その他」の2つ目でございますが、次回の審議会の日程についてでございます。今回は、再来週、令和7年2月7日の金曜日、午後6時半から、場所は、本日と同じく、体育館の2階会議室というふうになります。開催スパンが短くて恐れ入りますが、ご出席のほどよろしくお願いいたします。

す。

最後に、事務連絡となりますけれども、事前に郵送にて委員の皆様にお送りしておりました、保護者様及び職員様向けのアンケート調査の簡易集計でございますけれども、開催通知にも書かせていただきましたとおり、自由記述部分については、お名前を記入の上、一旦、事務局にて回収させていただきます。次回審議会では、記名いただいた同資料を机の上に配付させていただくような形とさせていただきます。

今回のアンケートにつきましては、会長のほうで冒頭におっしゃっていただいたように、匿名で寄せていただいているものですので、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

【竹内会長】 委員の皆さん、これでよろしいですか。本日は、本当にたくさんの傍聴の先生方、ほかの方もいらっしゃっていただいて、本当に大事な会議をさせていただいているんだと思います。少しでも、次によくつなげていきたいと思えます。

本日は寒い中、夜遅い中、委員の皆様、もちろん事務局の皆様もお越しいただき、ありがとうございました。本日の議事はこれまでとし、これをもちまして、第5回保育審議会を終了いたします。

本日はどうもありがとうございました。

— 了 —